



新人看護職員 研修の様子

新型コロナウイルス感染症の影響により、フェイスシールドやアクリルパネルの使用など様々な感染予防対策をとりながら行っています。そんな“新・研修様式”の中、新人の皆さんは積極的に研修に取り組んでいます。

導尿・膀胱留置カテーテル



◀標準予防策を含め、安全・安楽な方法を考えながら演習しました。羞恥心を伴う技術のため、患者を覆うタオルケットの使い方の工夫なども学びました。

他部門研修



◀他部門への同行研修を通して、他職種との連携・協働の必要性、チーム医療における看護職の役割を学びました。普段見ることのない裏側も見学しました。

社会人基礎力



◀社会人基礎力の各能力要素について行動目標を立て、日々取り組んでいます。研修では社会人としての自分の行動を振り返り、今後の新たな目標を考えました。

フレンズインタビュー ラッキーライラック

今回のラッキーライラックは、西9階病棟 指導主任看護師 蛭澤直美 さん です！

令和元年、当院は「炎症性腸疾患（IBD）に関する難病診療分野別拠点病院」に指定されました。蛭澤さんは、院内で初めて「日本難病看護学会認定 難病看護師」の認定を受け、難病患者の療養生活の質の向上のための活動を始めています。

*難病看護師の研修受講のきっかけは？

「難病診療分野別拠点病院」の役割として、IBD治療に関わる専門医の養成、メディカルスタッフ（看護師、薬剤師、栄養士）の教育があります。当院ではIBD専門に関わる看護師がおらず、当科診療科長の仲瀬教授より、日本難病看護学会が難病看護の質の向上に主体的に取り組める看護師の育成として難病看護師を認定していることを紹介され、推薦していただいたことがきっかけです。



*研修で学んだことは？

講義のほとんどが神経難病に関する内容で、グループワークでは、根拠に基づく指導力と実践力を強化し認定取得後の教育活動に活用できるよう、人工呼吸器や意思伝達装置などの医療機器を用いた指導計画の立案と実演を行いました。これまで神経難病に関わったことがほぼなかったのが、神経難病患者への関わりとして「“生きる”を支える」「今生きているこの世界が快適で、もっと生き続けたいと思えるような看護を」との話や、とても印象的でした。看護の視点で考えると、病気の特徴の違いはありますが看護の基本は何も変わりはないと思ったのと同時に身が引き締まる思いがしました。

*現在、院内での取り組みは？

科内、院内でのIBD看護の講義や、難病拠点病院MSチームで教育資料を作成予定ですが、新型コロナウイルス感染症拡大のため難航しています。その他の活動として、北海道の炎症性腸疾患患者に対するcovid-19に関する意識調査の前向き研究の自主臨床研究に参画し、北海道IBD研究会で発表させていただきました。



師長さん・病棟スタッフと蛭澤さん

*今後の目標は？

私の役割として、IBD看護や難病看護の活動を広めていくことだと思います。主はIBDですが、広く難病患者に関わることができたらと考えています。そのために、まずは足元から地道に固めていきたいと思っています。

私生活では3人の男の子のお母さんでもある蛭澤さん。今後の院内外での活躍が期待されます！

臨地実習を受けられないまま入職・・・ 令和3年度の新人看護師に必要な支援

日本看護系大学協議会によると、新型コロナウイルス感染症の影響で、看護系大学の7割以上が4年生の臨地実習を実施できなかったそうです。そのため、令和2年度卒業の新人看護師に対して例年よりも丁寧な指導を望む声が多く聞かれ、とくに強化を希望する内容として臨床での看護技術の実施やコミュニケーション能力が挙げられていました*。マスクやゴーグル装着などで表情がわかりにくい場面での意思疎通には、コミュニケーション能力が問われます。コミュニケーションに必要な発信力や傾聴力などは、当院の新人研修「社会人基礎力」でも学ぶところではありますが、研修全体を通して身に付けていけるような支援が必要だと考えています。また、新人看護師自身も感染症の終息が見えない中での病院勤務、現場経験の少ないままの就職に大きな不安を抱えているのではないのでしょうか。精神的な支援を含め、OJTとOff-JT共に力を合わせて新人看護師の皆さんを支えていけたらと思っています。

*2020年度看護系大学4年生の臨地実習科目(必修)の実施状況調査結果報告書
(<https://doi.org/10.32283/rep.598a3d11>)

お知らせ

妊娠・出産・育児と仕事の両立のための情報誌「ママフレンズサポートブック」の内容が一部改訂されます。新しいサポートブックには、妊娠中のアドバイスや働き方による給与の違いなど、新しい情報が満載です。ご希望の方は、看護部管理室か看護キャリア支援センターまでご連絡ください。



●改訂版は令和3年3月発刊予定

